

⑩海生生物

大阪市内では 231 種の海生生物が確認されています。このうち、外来種は 17 種、在来種は 214 種で、この在来種のうち 30 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。大阪市内の干潟は埋め立てなどにより減少したものの、現在、淀川河口には安定な汽水域や干潟が形成されており、これらの海生生物にとって重要なすみかとなっています。また、野島園臨港緑地（もと南港野島園）の造成干潟では、淀川河口では記録されてこなかった底生生物が多数見つかっており、これらの生息環境の創出に大きな役割を果たしています。

なお、市内の港湾には船舶が頻繁に入港し、また人工護岸も多いことから、外来種は増加傾向にあります。

和名	門名	綱名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府 レッドリスト 2014
イシワケイソギンチャク	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシソギンチャク科	-	-	情報不足
小型大平肺吸虫	扁形動物門	吸虫綱	肺吸虫目	肺吸虫科	-	-	情報不足
ヒロクチカノコ	軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
ヒナユキズメ	軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ目	ユキズメガイ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
フトヘナタリ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	キバウミナナ科	○	6	準絶滅危惧
カワグチツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ワカウラツボ科	○	6	準絶滅危惧
カワザンショウ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	○	6	準絶滅危惧
クリイロカワザンショウ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	-	6	準絶滅危惧
ヒナタムシヤドリカワザンショウ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧Ⅰ類
エドガワミズゴマツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ミズゴマツボ科	○	6	準絶滅危惧
ミズゴマツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ミズゴマツボ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
クレハガイ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	イトカケガイ科	-	-	準絶滅危惧
クサヅリクチキレ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	-	-	準絶滅危惧
ヨコイトカケギリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	-	-	情報不足
ヨコスジギリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	-	-	準絶滅危惧
ナギサノシタタリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	オカミミガイ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
ウスコミミガイ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	オカミミガイ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
イタバガキ	軟体動物門	二枚貝綱	ウグイスガイ目	イタバガキ科	○	6	情報不足
チリハギガイ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	チリハギガイ科	-	-	準絶滅危惧
ムラサキガイ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シオサザナミガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅危惧Ⅱ類
イソシジミ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シオサザナミガイ科	○(絶滅(注2))	-	情報不足
ヤマトシジミ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	○	6	準絶滅危惧
ハマグリ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
オオノガイ	軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	オオノガイ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
ソトオリガイ	軟体動物門	二枚貝綱	異鰐帯目	オキナガイ科	-	-	準絶滅危惧
ヒメヤマトカワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	情報不足
ヤマトカワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	情報不足
ウチワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
ヒトツブゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	-	-	準絶滅危惧
ハナオカカギゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	カギゴカイ科	-	-	情報不足
カサネシリス	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	シリス科	-	-	情報不足
カキモトシリス	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	シリス科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
ニッポンフサゴカイ	環形動物門	多毛綱	フサゴカイ目	フサゴカイ科	-	-	準絶滅危惧
タマシキゴカイ	環形動物門	多毛綱	イトゴカイ目	タマシキゴカイ科	○	6	準絶滅危惧
イソタマシキゴカイ	環形動物門	多毛綱	イトゴカイ目	タマシキゴカイ科	-	-	情報不足
クロイサザアミ	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	-	-	情報不足
ニホンイサザアミ	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	-	-	情報不足
オオサカドロソコエビ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	○	6	絶滅危惧Ⅰ類
ニホンドロクダムシ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	○	6	準絶滅危惧
タイリクドロクダムシ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	-	-	情報不足
コウバウミナナフシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ウミナナフシ科	-	-	情報不足
ヒメコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
トンダガワイソコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	-	-	情報不足
ナナツバコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	-	-	情報不足
ヨツバコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	○	6	準絶滅危惧
ヒガタスナホリムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
ハサミシヤコエビ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシヤコエビ科	-	-	準絶滅危惧

スナガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	○	6	準絶滅危惧
チゴガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
コメツキガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	-	-	準絶滅危惧
ヤマトオサガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	○	6	-
オサガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	-	-	準絶滅危惧
ユビアカベンケイガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	○	6	準絶滅危惧
フジテガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	○	6	準絶滅危惧
ヒメケフサイソガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	○	6	絶滅危惧Ⅱ類
ヒメアシハラガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	○	6	準絶滅危惧
オオヒライソガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	-	-	準絶滅危惧
ヒモイカリナマコ	棘皮動物門	ナマコ綱	無足目	イカリナマコ科	-	-	準絶滅危惧
マキヒトエグサ	緑色植物門	アオサ藻綱	ヒビミドロ目	マキヒトエグサ科	○	6	準絶滅危惧
ホソアヤギス	紅色植物門	紅藻綱	イギス目	コノハノリ科	○	6	準絶滅危惧

注1：資-6の③参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

### ⑪その他淡水産無脊椎動物（生息情報が少ないため「保護上注目すべき生き物」を選定せず）

大阪市内では水田が減少しており、淡水性種の主な生息環境は淀川・大和川といった大きな河川と都市公園の池に限られます。都市公園ではスジエビやテナガエビなどの在来種も見られますが、外来種も多く、アメリカザリガニなど生態系への影響が大きい種も生息しています。また、ミナミヌマエビ属で知られているような、在来種と形態による識別が困難な外来種も侵入している可能性があります。

### ⑫維管束植物

大阪市内では、花壇などの植栽を除き、1,488種の維管束植物が確認されています。このうち外来種は844種、在来種は644種で、この在来種のうち165種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この中には、ムサシモなどすでに絶滅した10種や、大阪府レッドリスト2014でも絶滅危惧Ⅰ類に指定されているヒキノカサやワンドスゲのほか、水田周辺や河口干潟に生育する多くの植物が含まれています。かつては、淀川水系のヨシなどの低湿地環境に生育する植物が広く分布していたと考えられますが、現在の重要な生育場所としては、大和川堤防、淀川堤防、住吉大社（御神殿を含む）などの各地の社寺林、上町台地の斜面林、上町台地西側湿地、野鳥園臨港緑地（もと南港野鳥園）や淀川河口の塩湿地などがあげられます。

和名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府 レッドリスト 2014
ハマハナヤスリ	ハナヤスリ科	○（絶滅（注2））	-	絶滅危惧Ⅰ類
マツバラ	マツバラ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
デンジソウ	デンジソウ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
ミズワラビ	イノモトソウ科	○	3・5	-
サンショウモ	サンショウモ科	○（絶滅（注2））	-	絶滅危惧Ⅰ類
オオアカウキサ	サンショウモ科	-	-	絶滅
ヒツジグサ	スイレン科	-	-	準絶滅危惧
コウヤマキ	コウヤマキ科	-	-	情報不足
コウホネ	スイレン科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
ハンゲショウ	ドクダミ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ科	○	5	-
カラスビシャク	サトイモ科	○	1・5	-
オモダカ	オモダカ科	○	3・4・5	-
クロモ	トチカガミ科	○	4・5	-
トチカガミ	トチカガミ科	○	4・5	絶滅危惧Ⅰ類
ムサシモ	トチカガミ科	○（絶滅（注2））	-	絶滅

イトトリゲモ	トチカガミ科	○	3・5	絶滅危惧Ⅱ類
ホッスモ	トチカガミ科	○	3・5	-
トリゲモ	トチカガミ科	○	5	情報不足
ミズオオバコ	トチカガミ科	○	3・4	準絶滅危惧
コウガイモ	トチカガミ科	○	5	準絶滅危惧
セキショウモ	トチカガミ科	-	-	絶滅
イトモ	ヒルムシロ科	○	4・5	絶滅危惧Ⅰ類
センニンモ	ヒルムシロ科	○	5	準絶滅危惧
ホソバミズヒキモ	ヒルムシロ科	○	4・5	-
ササバモ	ヒルムシロ科	○	5	準絶滅危惧
イトクズモ	ヒルムシロ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
カワツルモ	カワツルモ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
ソクシンラン	キンコウカ科	○	1・2・5	-
シラン	ラン科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
ヒオウギ	アヤメ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
ノカンゾウ	ススキノキ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
ツルボ	キジカクシ科	○	5	-
ヒメヤブラン	キジカクシ科	○	5	-
ヤブラン	キジカクシ科	○	2・5	-
ノシラン	キジカクシ科	○	2	情報不足
ナガバジャノヒゲ	キジカクシ科	○	2	-
イボクサ	ツユクサ科	○	3・4・5	-
ミズアオイ	ミズアオイ科	○	3・4・5	絶滅危惧Ⅰ類
ガマ	ガマ科	○	4・5・8(湿った空き地にも生育)	-
コガマ	ガマ科	○	4・5・8(湿った空き地にも生育)	準絶滅危惧
ハナビゼキショウ	イグサ科	○	3・4・5(湿った空き地にも生育)	-
イグサ	イグサ科	○	3・4・5(湿った空き地にも生育)	-
ヒロハノコウガイゼキショウ	イグサ科	○	4・5	-
コウガイゼキショウ	イグサ科	○	3・4・5・8(湿った空き地にも生育)	-
ホソイ	イグサ科	○	3・5	-
ウキヤガラ	カヤツリグサ科	○	5	-
コウキヤガラ	カヤツリグサ科	○	5	-
イトハナビデンツキ	カヤツリグサ科	○	3・5	-
ワンドスゲ	カヤツリグサ科	○	5	絶滅危惧Ⅰ類
カサスゲ	カヤツリグサ科	○	5	-
コウボウムギ	カヤツリグサ科	○	8(海浜に生育するが、現在の大阪市内には該当する環境は無く、絶滅の可能性が高い)	絶滅危惧Ⅱ類
ヤガミスゲ	カヤツリグサ科	○	5	準絶滅危惧
ピロードスゲ	カヤツリグサ科	○	5	準絶滅危惧
ミコシガヤ	カヤツリグサ科	○	5	準絶滅危惧
アゼスゲ	カヤツリグサ科	○	3・5	-
ヒトモトススキ	カヤツリグサ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
アイダクグ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
タマガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒナガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
アオガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
オオシロガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ミズガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
シカクイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒメヒラデンツキ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒデリコ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
イソヤマデンツキ	カヤツリグサ科	○	5	-
ヤマイ	カヤツリグサ科	○	5	-
メアゼデンツキ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ヒンジガヤツリ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
ホタルイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
イヌホタルイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
フトイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	絶滅危惧Ⅱ類
サンカクイ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	-
マツカサススキ	カヤツリグサ科	○	3・4・5	絶滅危惧Ⅱ類
コウボウ	イネ科	○	2	-
コブナグサ	イネ科	○	3・4・5	-
ヤマアワ	イネ科	○	5	-
オガルカヤ	イネ科	○	5	-
タイヌビエ	イネ科	○	3・4・5	-
コゴメカゼクサ	イネ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
ムツオレグサ	イネ科	○	3・4・5	-
ヒロハノドジョウツナギ	イネ科	○	3・4・5	-

ウシノシツペイ	イネ科	○	4・5	-
チゴザサ	イネ科	○	3・4・5	-
ハイチゴザサ	イネ科	○	3・4・5	-
カモノハシ	イネ科	○	5	-
ミノボロ	イネ科	○	5	絶滅危惧Ⅱ類
アシカキ	イネ科	○	5	-
チャボチヂミザサ	イネ科	-	-	準絶滅危惧
アイアシ	イネ科	○(絶滅(注2))	-	準絶滅危惧
ツルヨシ	イネ科	○	5	-
ハマヒエガエリ	イネ科	○	6・7	-
ウシクサ	イネ科	○	2	絶滅危惧Ⅱ類
ヒゲシバ	イネ科	○(絶滅(注2))	-	絶滅
マコモ	イネ科	○	4・5	-
マツモ	マツモ科	○	4・5	-
メギ	メギ科	-	-	準絶滅危惧
ウマノアシガタ	キンボウゲ科	○	3・4・5	-
キツネノボタン	キンボウゲ科	○	3・4・5	-
ヒキノカサ	キンボウゲ科	○	5	絶滅危惧Ⅰ類
ツゲ	ツゲ科	-	-	準絶滅危惧
タコノアシ	タコノアシ科	○	5	準絶滅危惧
ハマエンドウ	マメ科	○	7・8(海浜に主に生育する。その周辺の荒地にも生育することあり)	準絶滅危惧
ツルフジバカマ	マメ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
オオバクサフジ	マメ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
モモ	バラ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
ツチグリ	バラ科	-	-	絶滅
シモツケ	バラ科	-	-	情報不足
ユキヤナギ	バラ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
ハルニレ	ニレ科	-	-	絶滅
カシワ	ブナ科	-	-	準絶滅危惧
オニグルミ	クルミ科	○	5	-
ゴキツル	ウリ科	○	4・5	-
カラスウリ	ウリ科	○	1	-
スズメウリ	ウリ科	○	1	-
コゴメヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
カワヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
オオタチヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
タチヤナギ	ヤナギ科	○	5	-
ヒゴスミレ	スミレ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
タチツボスミレ	スミレ科	○	1・2	-
ヒメミソハギ	ミソハギ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ミズマツバ	ミソハギ科	○	5	準絶滅危惧
ヒシ	ミソハギ科	○	4・5	-
オニビシ	ミソハギ科	○	4・5	-
ハマボウ	アオイ科	-	-	絶滅
ミズタマソウ	アカバナ科	○	5・8(湿った林床に生育するが、現在の大阪市内には該当する環境は無く、絶滅の可能性が高い)	-
チョウジタデ	アカバナ科	○	3・4・5	-
コイヌガラシ	アブラナ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
スカシタゴボウ	アブラナ科	○	3・4・5	-
ホソバイスタデ	タデ科	○	5	絶滅危惧Ⅱ類
ナガバノウナギツカミ	タデ科	○	5	絶滅危惧Ⅱ類
シロバナサクラタデ	タデ科	○	5	-
サデクサ	タデ科	○	5	準絶滅危惧
ハルタデ	タデ科	○	3・4・5	-
サクラタデ	タデ科	○	3・5	-
ボントクタデ	タデ科	○	1・5	-
ウナギツカミ	タデ科	○	3・5	-
ヌカボタデ	タデ科	○	5	絶滅危惧Ⅱ類
アキノミチヤナギ	タデ科	○	7・8(海浜環境及びその周辺の荒地に生育)	-
コギンギシ	タデ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ギンギシ	タデ科	○	1・3・5	-
イシモチソウ	モウセンゴケ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
ツメクサ	ナデシコ科	○	2・3・4・5	-
ノミノフスマ	ナデシコ科	○	3・4・5	-
ハママツナ	ヒユ科	○	6	絶滅危惧Ⅰ類
ツルナ	ハマミズナ科	○	6	-
トキワガキ	カキノキ科	-	-	準絶滅危惧

ヌマトラノオ	サクラソウ科	○	3・4・5	-
クリンソウ	サクラソウ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
コカモメヅル	キョウチクトウ科	○	1・2・5	-
コバノカモメヅル	キョウチクトウ科	○	1・2・5	絶滅危惧Ⅱ類
ハマヒルガオ	ヒルガオ科	○	7・8 (海浜環境及びその周辺の荒地に生育)	-
ネナシカズラ	ヒルガオ科	○	5	-
オオマルバノホロシ	ナス科	○	5	絶滅危惧Ⅱ類
アワゴケ	オオバコ科	○	3・4・5	-
ミズハコベ	オオバコ科	○	3・4・5	-
イヌノフグリ	オオバコ科	○	1・2	-
カワヂシャ	オオバコ科	○	3・4・5	準絶滅危惧
ゴマノハグサ	ゴマノハグサ科	○ (絶滅 (注2))	-	絶滅危惧Ⅰ類
アゼトウガラシ	アゼナ科	○	3・4・5	-
アゼナ	アゼナ科	○	3・4・5	-
キランソウ	シソ科	○	2・5	-
コムラサキ	シソ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
メハジキ	シソ科	○	5	-
シロネ	シソ科	○	5	-
ヒメサルダヒコ	シソ科	○	5	-
ヒメジソ	シソ科	○	3・4・5	-
アキノタムラソウ	シソ科	○	1・2・5	-
ミソコウジュ	シソ科	○	5	準絶滅危惧
タツナミソウ	シソ科	○	1・2・5	-
ナミキツウ	シソ科	○ (絶滅 (注2))	-	絶滅
イヌゴマ	シソ科	○	5	-
ハマゴウ	シソ科	-	-	絶滅危惧Ⅱ類
イヌタヌキモ	タヌキモ科	○	4	準絶滅危惧
ミソカクシ	キキョウ科	○	3・5	-
アサザ	ミツガシワ科	-	-	情報不足
オトコヨモギ	キク科	○	5	-
センダングサ	キク科	○	5	-
タウコギ	キク科	○	5	-
ヤブタバコ	キク科	○	1・2・5	-
ヨシノアザミ	キク科	○	1・2・5	-
ヤクシソウ	キク科	○	2	-
タカサブロウ	キク科	○	3・4・5	-
コオニタビラコ	キク科	○	3・4・5	-
ヤブタビラコ	キク科	○	1・2	-
フキ	キク科	○	5	-
コウゾリナ	キク科	○	1・5	-
ハハコグサ	キク科	○	1・3・5	-
キクアザミ	キク科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
カンサイタンポポ	キク科	○	1・5	-
ウラボキ	キク科	○	6	準絶滅危惧
オナモミ	キク科	○ (絶滅 (注2))	-	絶滅
ハマウド	セリ科	○	6・8 (海浜環境や、干潟の周囲の草地に生育)	-
ドクゼリ	セリ科	○	4・5	絶滅危惧Ⅱ類
セリ	セリ科	○	3・4・5	-

注1：資-6の③参照

注2：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから30年程度経過している、あるいは既知の生息・生育環境が完全に消失したと考えられるため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。  
大阪市内で確認はされていても園芸による植栽由来と考えられる種は大阪市内における「保護上注目すべき生き物」として分類していない。  
例えばツチグリやユキヤナギは大阪府レッドリスト2014で絶滅とされているが、大阪市内で見られるものは園芸植物由来のものであると考えられるため、「保護上注目すべき生き物」として分類していない。

### ⑬コケ類

大阪市内では 96 種のコケ類が確認されています。このうち、外来種は 1 種、在来種は 95 種で、この在来種のうち、冬季の水位が下がった水田や浅いため池に見られるイチョウウキゴケ、ハタケゴケなどの水辺のコケ 4 種と、樹幹着生性のオオスミヨウジョウゴケの合計 5 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 5 種については、市内で水田が減少し、ため池などが人工護岸化されたため、生育地が減少したと考えられます。大阪市内の重要な生息地としては、市内に残る貴重な水田、大阪城北側の石垣、上町台地西側の樹林帯及び湿地、大阪城公園・靱公園・長居公園などの大径木を残した公園などがあげられます。

和名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府 レッドリスト 2014
オオスミヨウジョウゴケ	クサリゴケ科	○	1・2	情報不足
ウキゴケ	ウキゴケ科	○	3・4	絶滅危惧Ⅱ類
ミヤケハタケゴケ	ウキゴケ科	○	1・3	情報不足
ミドリハタケゴケ	ウキゴケ科	○	1・3	準絶滅危惧
イチョウウキゴケ	ウキゴケ科	○	3・4	情報不足

注1：資-6の③参照

### ⑭菌類（生育情報が少ないため、「保護上注目すべき生き物」を選定せず）

菌類は、動物・植物から独立した酵母、カビ、きのこなどを含む多様な生物群ですが、生物多様性保全の上では、肉眼的な観察記録の残る大型菌類（きのこ類）に焦点が当てられます。きのこ類には、マツ科やブナ科などの樹木と共生する外生菌根菌類、木材腐朽菌、落葉分解菌など、森林に依存する種が多いので、樹林地の少ない大阪市内での調査事例は極めて少なく、長居公園や大阪城公園での調査事例に限られています。それでも、大阪市内には 282 種の生育が確認されており、市内の生態系の中において、動植物の分解・吸収などで重要な役割を果たしていると言えます。大阪市内の生息情報が少ないため、明確な判断は難しいですが、かつて住吉大社周辺で広く採取されていたというショウロ（大阪府レッドリスト 2014 の絶滅危惧Ⅱ類）などは、大阪市内では絶滅した可能性が高いと考えられます。一方、イカタケ、カゴタケなどの希少種が市街地の緑地などから見つかる可能性があると考えられます。

和名	目名	科名	大阪市内の保護上 注目すべき生き物	生息・生育環境 (注1)	(参考)大阪府レッド リスト 2014
ホオベニシロアシグチ	ハラタケ目	イグチ科	-	-	準絶滅危惧
ハツタケ	ハラタケ目	ベニタケ科	-	-	準絶滅危惧
ケシボウズタケ	ケシボウズタケ目	ケシボウズタケ科	-	-	準絶滅危惧
スジチャダイゴケ	チャダイゴケ目	チャダイゴケ科	-	-	準絶滅危惧
カゴタケ	スッポンタケ目	アカカゴタケ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
イカタケ	スッポンタケ目	アカカゴタケ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
ショウロ	ヒメノガステル目	ショウロ科	-	-	絶滅危惧Ⅰ類
クモタケ	スチルペラ目	スチルペラ科	-	-	情報不足

注1：資-6の③参照

【参考】

各種調査によると、1950年頃から大阪市内で生息・生育記録がある種は合計4,502種です。このうち、「大阪府レッドリスト2014」に掲載されている種は、絶滅は18種、絶滅危惧Ⅰ類は51種、絶滅危惧Ⅱ類は100種、準絶滅危惧は159種、情報不足は35種と、合計363種となります。

■大阪市内の希少な生き物（総括表）

No.	分類群	市内で生息・生育していることが確認された種	「大阪府レッドリスト2014」掲載種				
			絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足
1	ほ乳類	16	0	1	1	1	0
2	鳥類	324	0	6	26	44	2
3	爬虫類	11	0	0	1	1	0
4	両生類	7	0	1	1	2	0
5	汽水・淡水魚類	120	0	12	6	8	4
6	昆虫類	1,768	4	11	20	38	4
7	クモ類	100	0	0	0	1	0
8	陸産貝類	27	0	0	0	1	0
9	淡水産貝類	22	1	1	6	2	0
10	海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	231	2	2	12	27	16
11	その他淡水産無脊椎動物	10	0	0	0	0	0
12	維管束植物	1,488	11	17	23	29	5
13	コケ植物	96	0	0	1	1	3
14	菌類	282	0	0	3	4	1
	合計	4,502	18	51	100	159	35

## (2) 特定外来生物

大阪市内で確認されている生き物のうち、特定外来生物に指定されているものは、ほ乳類3種、鳥類1種、爬虫類1種、両生類1種、魚類4種、昆虫類3種、クモ類2種、淡水産貝類1種、維管束植物8種の合計24種となります。

分類群	和名	科名
ほ乳類	アライグマ	アライグマ科
ほ乳類	タイワンリス	リス科
ほ乳類	ヌートリア	ヌートリア科
鳥類	ソウシチョウ	チメドリ科
爬虫類	カミツキガメ	カミツキガメ科
両生類	ウシガエル	アカガエル科
魚類	カダヤシ	カダヤシ科
魚類	ブルーギル	サンフィッシュ科
魚類	オオクチバス	サンフィッシュ科
魚類	コクチバス	サンフィッシュ科
昆虫類	アルゼンチンアリ	アリ科
昆虫類	アカカミアリ	アリ科
昆虫類	ヒアリ	アリ科
クモ類	ハイイロゴケグモ	ヒメグモ科
クモ類	セアカゴケグモ	ヒメグモ科
淡水産貝類	カワヒバリガイ	イガイ科
維管束植物	ボタンウキクサ	サトイモ科
維管束植物	オオフサモ	アリノトウグサ科
維管束植物	アレチウリ	ウリ科
維管束植物	ナガエツルノゲイトウ	ヒユ科
維管束植物	オオカワヂシャ	オオバコ科
維管束植物	オオキンケイギク	キク科
維管束植物	ミズヒマワリ	キク科
維管束植物	ナルトサワギク	キク科

## 5 大阪市生物多様性戦略（2018-2020）に基づく取組みの振り返り

大阪市では、2050年めざすまちの姿「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向け、これまで生物多様性の理解と普及に努めた結果、以下の進捗となっています。生物多様性の損失が進行している今、身近な自然環境の保全にとどまらず、周辺地域や国内外にも目を向け、生物多様性へ好影響を与える消費を通じた社会の変革に向けた取組み等、様々な施策を推進する必要があります。

### ■基本戦略 A 生物多様性の発見と行動の展開

基本戦略に基づく方針		進捗状況	主な取組み状況等（※〔〕内に2019年度実績を記載）
方針 I	身近なところでの生き物・植物の発見	進捗中	・子どもたちの身近な場所で様々な生き物たちが生息・生育していることを知ることで、生き物がいる環境を守ろうという意識を育ませることを目的に、市立小学校において、児童と一緒に校内に生息・生育する生き物を調査する体験型の出前授業を実施した。〔30校 計60回実施〕
方針 II	自然体験を通じ、身近な都市の魅力としての気づきを促す取組み	進捗中	・市民が身近な自然や生き物に親しみ、学び、体験することで都市にいながら自然の魅力に気づいてもらうことを目的に、花博記念公園鶴見緑地内の自然体験観察園を用いた環境学習講座の実施や、住之江抽水所のせせらぎの里での農事体験を実施した。 ・講座の実施にあたっては、大阪市エコボランティア、事業者、環境NGO/NPO、研究機関、教育機関等と連携した。〔36回（うち2回は新型コロナウイルス感染症の影響等により中止）、613人参加〕
方針 III	環境教育・啓発	進捗中	・市民の生物多様性についての意識啓発を図るため、環境活動推進施設（愛称「なにわECOスクエア」）を中心に、市民、事業者、環境NGO/NPO、教育機関等と連携した環境学習講座や出前講座を実施した。〔170回、5,611人〕 ・環境活動の発表の場としてECO縁日を開催した。〔参加者10,308人〕 ・大阪市ホームページをはじめ、環境学習情報サイト「なにわエコスタイル」や、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、Instagram(インスタグラム)など各SNS、さらに自然史博物館ホームページを通じ、情報発信を行った。 ・生物多様性保全に関する各種ネットワークに参画し、取組みを推進している。〔ネットワークへの参画数：6〕 ・天王寺動物園では、2019年度に大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センターの取組み「おおさか生物多様性リンク」の連携先第1号として協定を締結し、生物多様性に関する普及啓発、情報発信に関する取組みを推進している。

### ■基本戦略 B 自然空間の保全・創造

基本戦略に基づく方針		進捗状況	主な取組み状況等（※〔〕内に2019年度実績を記載）
方針 I	生物多様性の保全	進捗中	・生態系ネットワークを形成する上で拠点となる、市内の貴重な環境が残る大規模な市営公園〔14か所〕等について、適正な維持管理を行った。 ・大阪港内では、特定外来生物（ヒアリ等）の独自調査を実施〔調査回数：5回〕し、外来生物の侵入防止の取組みを行った。 ・咲くやこの花館及び長居植物園においては、植物多様性保全拠点園ネットワークへ参画し、特定植物保全拠点園として希少種の保護対策を推進している。
方針 II	生き物の生息・生育空間である生態系ネットワークの拠点（エリア）の創出	進捗中	・「新・大阪市緑の基本計画」に基づき、緑化を推進するとともに、豪雨対策におけるグリーンインフラの活用検討や、淀川左岸線2期工事の事業区間における淀川の自然環境の配慮、さらには民有地での建築物新築時の緑化（屋上緑化含む）の促進など、事業者へ緑化協議を行った。〔計画件数474件・計画面積約186千m <sup>2</sup> 〕 ・大阪府が実施の「おおさか生物多様性パートナー協定制度」について、大阪市においても大阪府と連携して制度のPRを行うなど、連携強化を行った。
方針 III	生態系ネットワークの形成と広域連携の取組み	進捗中	・大阪湾再生推進会議、寝屋川流域協議会に参画し、大阪湾の水質改善に向けた再生プロジェクト等を展開した。 ・関西広域連合において、広域的な生態系ネットワークの形成に向けた広域的な取組みを行った。

■基本戦略 C 生物多様性に配慮した生産・消費への変革

基本戦略に基づく方針		進捗状況	主な取組み状況等（※〔〕内に2019年度実績を記載）
方針 I	暮らしと生物多様性の関わり発信	進捗中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験観察園において、なにわの伝統野菜に関する講座を実施した。〔3回、65人〕</li> <li>・区役所等においては、なにわ伝統野菜の生産者・市民を結ぶイベントや食育教室等を実施した。〔食育教室2,874回〕</li> <li>・中央卸売市場では、子どもたちを対象とした市場体験ツアーを実施した。〔1回、79人〕</li> </ul>
方針 II	民間事業者の生物多様性の取組みの促進	進捗中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全に関し顕著な功績のあった個人、地球環境に貢献する事業者・団体、並びに学校園を表彰する「大阪市環境表彰」を実施した。〔個人2件、団体・事業者2件、学校園2件〕</li> <li>・「生物多様性民間参画ガイドライン」（環境省）や生物多様性に配慮した木材製品調達を促す認証制度などの活用を図り、事業者等の取組みを促進していく必要がある。</li> </ul>
方針 III	生物多様性に配慮した生活への変革	進捗中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大阪市食べ残しゼロ推進店舗登録制度」の推進や、事業者との協定締結等により食品ロス削減に向けた取組みを推進した。〔登録店舗数：105店〕</li> <li>・グリーン調達の推進や公共建築物などでの木材利用を図るとともに、森林環境譲与税を活用した国産木材利用・啓発事業の取組みを実施。2020年11月には、グリーン購入に関して優れた取組みを行っている地方公共団体を表彰する「グリーン購入推進自治体特別賞」を受賞。引き続き生物多様性に配慮した取組みを推進するなどにより、生産・消費への変革に向け取り組む必要がある。</li> </ul>

■基本戦略 D 都市・地球環境問題に対する取組み

基本戦略に基づく方針		進捗状況	主な取組み状況等（※〔〕内に2019年度実績を記載）
方針 I	都市環境問題に対する取組み	進捗中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおさかヒートアイランド対策推進計画」に基づく取組みをはじめ、市内の公共用水域や事業所の排水に対する水質監視、環境影響評価に基づく適切な環境配慮の促進など、大阪市の都市環境問題に対する取組みを推進した。</li> </ul>
方針 II	地球温暖化に対する取組み	進捗中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕及び〔事務事業編〕」に基づく取組みを推進するとともに、今後は2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で30%削減することをめざし、さらなる取組みを推進していく。</li> </ul>
方針 III	国際貢献	進捗中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市の国際貢献の取組みとして、ベトナム・ホーチミン市の低炭素都市形成の実現に向けた都市間協力に関する覚書を締結し、専門技術や知識の共有、都市計画の策定、人材育成や組織・制度の整備、プロジェクトの創出・形成など幅広い支援を提供。</li> <li>・フィリピン・ケソン市の低炭素都市形成の実現に向け都市間協力に関する覚書を締結し、都市間協力や官民連携により、ケソン市の環境保全や気候変動対策の取組みを推進した。</li> <li>・G20大阪サミットで共有された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」に貢献する取組みを推進していく。</li> </ul>

なお、評価方法については、ポスト愛知目標の「2020年以降の世界的な生物多様性の枠組の0.2ドラフト」や生物多様性国家戦略などで示される達成目標などにより、検討を行います。